

風 だより

詩・曲 長島 東雄

曲 水口 公也

うた・ピアノ 加藤 のりこ

遠くなる 故郷の便りだが
花一輪 コップでかざる
香りがただよう 匂います
故郷恋しや 思い出ばかり
冷たい こがらし 吹きすぎても
時のたつのは つかのまだけさ
風便り さそわれる 菜の花畑

目を閉じて 口ずさむ 子守り唄
わらを打つ 木づちの ひびき
いろり火もえる めくみかな
寒さがしみる 夜のしじまは
夢さそう ゆれてるい 灯火よ
今は届かぬ 眠りの中に
まろやかな 乳房なれ 母の面影

こぶし咲き つつじ萌え 春が来る
花一輪 コップでかざる
香りがただよう 匂います
笑顔忘れて いきるなんて
ビルの谷間 聞こえます 鳥の声
国へ旅たち 潮風受けて
風便り 届けて 故郷の便り
風便り 届けて 翼に乗せて

